

大草谷津田いきものの里 自然観察会

セミの抜け殻みつけ

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2018年8月19日(日)10時30分～12時 天候：晴れ時々曇り

参加者：22名（大人12名 子ども10名）

担当指導員：太田慶子・芳我めぐみ

参加指導員：岡田敬子・萩 將勝・山下美佐子

観察会の一週間程前抜け殻を見つけにいきものの里に行ってみた。アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、樹上から声は勢いよく降ってくるのに抜け殻は中々見つからない。当日朝の下見でも太田さんと回ったがやはり少ない。梅雨明けが早くセミの羽化も早かった。その頃たくさんの中皮に付いていた抜け殻はその後雨で流され、落ちて枯葉や土に紛れてしまい見つけられないのだろう。

スズメバチなどに対する注意などをしてから、セミの抜け殻のイラストを描いたものと紙コップを参加者に手渡す。抜け殻を見つけたらコップに入れるようお願いした。セミの成虫、幼虫の標本を見せて簡単に特徴を説明する。セミは翅があり飛べるので見かけたとしてもそこで生活しているかどうかはわからない。抜け殻が見つかればその場所にいることがわかる。だから抜け殻を探すのは意味があるのだと説明する太田さんに参加者は納得。ちょうどクマゼミの声が一瞬聞こえた。クマゼミの抜け殻は大草ではまだ見つかっていない。



入口の林縁でアブラゼミの抜け殻を見つけた子、広場でニイニイゼミの成体を捕まえた子、セミが羽化する時に這い出た穴を発見する子など早速子供たちは活動を開始する。捕まえたセミの持ち方を太田さんから教えてもらうと体をひっくり返しお腹を参加者に見せる。腹弁が無いので雌だった。腹弁はセミが鳴くための発音器の一部なのでこれを持っている雄しか鳴かない。アブラゼミの死んでいるのを見つけて「これは雄！」と見分けていた。子どもたちのお気に入りはいつも足元のダンゴムシやオオヒラタシデムシ。「オオヒラタシデムシは森のお掃除屋さんで臭いから触らないほうがいいよ」などと注意する。アオキやヤツデの葉裏に抜け殻はついていたがやはり数は少ない。陽が陰ったところで「カナカナ」ヒグラシの涼しげな声が聞こえた。谷津田ではオニヤンマが時折脇を通り過ぎる。

谷津田のベンチの前で集めた抜け殻を分類し数を数えた。ヒグラシ 14 (42)、ニイニイゼミ 3 (14)、アブラゼミ 21 (54)、ミンミンゼミ 5 (1)、ツクツクボウシ 7 (6)、（ ）は2017年のもの

「セミは地面の下で何年も木の根っここの汁を吸ってモグラにも見つかず菌にもやられなかつたものだけが地面から這い出して、脱皮して大人になるのよ。」最後に紙芝居（せみくんがおとうふくをきかえたら）を見せて観察会を終了した。